

FOCUS

助産師養成課程の開設記念式典を開催しました ～子どもたちと女性に寄り添い歩む助産師を育成へ～

令和5年4月1日(土)、本学は「別科助産学専攻」及び「大学院看護学研究科博士前期課程看護学専攻母性看護学・助産学領域助産師コース」を開設し、同月9日(日)には、助産師養成課程の開設記念式典及び講義実習棟となる8号館WESTの施設見学を多くの関係者にご臨席いただき行いました。

式典では、竹之下誠一理事長兼学長が「本県の未来を担う子どもたちと女性に寄り添い歩む助産師を育成する」と式辞を述べ、福島県知事祝辞(佐藤宏隆副知事代読)では、「県民に寄り添い、医療現場をけん引していく人材を世に送り出す医療系総合大学として、さらなる進化を果たされますことを期待しております」とのお言葉をいただきました。

佐藤宏隆副知事、佐藤政隆県議会副議長、一般社団法人福島県看護学校協議会星北斗会長、竹之下誠一理事長兼学長の4人によるテープカットに続いて、太田操別科長の案内で施設見学を行いました。

福島県の復興を進める上でも、将来を担う子どもたちを安心して生み育てられる福島県にすることが求められており、助産師の確保及び県内定着は重要な課題です。



本学では、周産期だけでなく思春期から更年期に至る女性とその家族の健康を包括的に支援できる助産師の育成を目指してまいります。

詳しくは
こちらから



Web site

NEWS

本学学部生が日本WHO協会主催イベント 応募動画優秀賞受賞

本学医学部2年生の大橋由生さんが公益社団法人日本WHO協会主催イベント応募動画「わたしたちの地球、わたしたちの健康」で優秀賞を受賞しました。

「世界中のみんなとカルタで遊んでみた」と題した当該作品は、カルタを通じて世界とつながる楽しさやプラネタリーヘルスの大切さをテーマ

に、医学生が仲間と創った、自由な遊び心にあふれた作品であることが評価されました。

今回の受賞にあたり、大橋さんは、「多くの方の協力のおかげで受賞でき、非常に光栄に思う。動画制作を通して地球の健康をみんなで考える重要性を改めて実感した」と感想を述べました。



公益社団法人日本WHO協会提供画像



福島国際研究教育機構 (F-REI)と連携協力基本合意書を締結

令和5年4月5日(水)、本学と福島国際研究教育機構(以下、F-REI)は、研究開発や人材育成等での連携協力について基本合意書を締結しました。

今後、この基本合意書に沿って、互いの強みを生かした協働活動の推進や研究開発・人材育成等の充実を進め、F-REIが重点分野に位置づける5分野のうち、既に先行研究の取組が行われている第4分野の「放射線科学・創薬医療」に加えて、

第5分野の「原子力災害に関するデータや知見の集積・発信」においても連携を深めています。

また、締結式に先立ち、F-REI初の研究組織となる「F-REI福島医大研究分室」の開所式が行われました。F-REIとして最初の研究組織である放射生態学ユニットが置かれ、第5分野を中心とした研究活動が行われ、高精度の核種分析技術の開発などが進められます。



渡辺博道復興大臣が来学されました

令和5年4月22日(土)、渡辺博道復興大臣が来学され、放射線災害医療センター、先端臨床研究センター及び医療・産業トランスレーショナルリサーチセンターを視察されました。

まず、放射線災害医療センターにおいて、原発事故直後の汚染傷患者への医療対応について説明を受けた後、先端臨床研究センターで行われた概要説明・意見交換会で、竹之下誠一理事長兼学長等から、アスタチンを用いた治療薬の研究開発状況や、新型コロナウイルスの変異株であるBA.5にも有効なIgA抗体を利用したマスク・スプレーの開発や、福島復興を医療面から支えてきた本学12年間の取組について説

明があり、大臣との間で熱心な質疑・意見交換が行われました。

その後、同センター内設置の国内唯一の医療用のRI製造用中型サイクロトロン現場を見学し、アスタチン製造などについて概要説明を受けられました。

次に、医療・産業トランスレーショナルリサーチセンターでは、抗体を活用した医薬品・診断薬・衛生製品などの研究開発、浜通りサテライトにおける世界レベルの研究など、医薬品関連産業の集積に向けた具体的な取組の説明に熱心に耳を傾けられました。

視察の最後に、渡辺博道復興大臣から「革新



的な医薬品開発は、特にF-REIにおいても重点的に取り組むこととしている研究分野であり、福島県立医科大学をはじめとした関係機関と連携し、緊密なパートナーシップを構築していきたい」との発言がありました。

本学は、今後もF-REIにおける「放射線科学・創薬医療」と「原子力災害に関するデータや知見の集積・発信」の2つの分野の研究に積極的に取り組んでまいります。

F-REI 紹介動画が首相官邸 YouTubeチャンネルで公開されました

世界に対して、F-REIで始まる様々な新しい試みなど、新たな復興のフェーズに入る福島を紹介することを目的とした動画が全編英語で作成されました。

世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」を目

指すF-REIを通して福島復興の未来への期待感が描かれています。

斬新なカメラワークと小気味良いテンポで刻まれた映像とともに、本学の放射線科学・創薬医療の取組が他機関と並んで紹介されて

います。ぜひご覧ください。



INFORMATION

新たな高線量率密封小線源治療装置 (RALS) を導入

令和5年3月、本学附属病院は、子宮頸がんの放射線治療等に用いられる高線量率密封小線源治療装置 (RALS) を更新し、がんや腫瘍などの組織にピンポイントで放射線照射を高精度に行う治療装置「フレキシトロンHDR」を導入いたしました。

同時に、放射線治療用に開発された、汎用性の高いCT装置「SOMATOM go.Sim」、及び、被ばくを抑えながら高画質化を自動で行い、軽量で手術室での操作性を飛躍的に向上されたX線撮影装置「Cios Select FD」も小線源治療

室内に導入いたしました。

今回の導入により小線源治療時にX線やCT画像を確認しながら手技を進められることから、小線源治療の高精度化、リスク臓器への線量を考慮した治療が可能となります。

組織内照射やハイブリット照射といった通常の小線源治療よりも複雑・高度な治療がより安全に行えるようになります。

また、これまでCT画像の確認が必要な際はCT室に移動して撮像する必要がありましたが、部



屋の移動なくCTが撮像できるようになり、治療時間の短縮はもとより、何よりも患者さんの負担軽減が期待されます。

今後も、県内医療に貢献し、県民に還元する大学病院であり続けることができるよう全力を尽くしてまいります。